

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成22年2月18日
種別	古文書
名称	関根家文書
員数	612点（枝番は除く）
所在地	宮代町字金原
所有者の住所・氏名	関根家
管理者の住所・氏名	宮代町教育委員会
経過及び現況	<p>百間金谷原組関根家文書は、平成15年1月14日に字金原の関根氏宅から江戸時代中期から近代にかけての文書が長持等から発見され、さらに、平成18年10月29日には岩槻城絵図と下の谷新田絵図が、平成19年6月13日には3点の典籍が関根孝吉氏より届けられた。総点数は枝番を除き612点である。</p> <p>関根家は旗本松波氏知行の百間村金谷原組の名主を勤めた家である。古文書では宝暦8年（1758）に組頭であったことが確認でき、宝暦9年（1759）から文化10年（1813）までに3代（七郎右衛門、九郎兵衛、七郎右衛門）約60年に渡り名主を勤めたことが確認できる。しかし、その後組頭等の村役を勤めた事は確認できない。口伝でも七郎名主と呼ばれた関根家から折原家に名主が変わったと伝えられている。</p> <p>文書群の概要は、江戸時代中期から昭和期までの文書群で基本的には明治期のものが多い。総点数612点の内江戸時代のものとは推定できるのは149点である。一方、関根家が名主を勤めていた江戸時代中期から後期前半の文書は約40点と少ないといえる。最も古いものは享保14年（1729）の逆井新田金谷原組検地帳がある。この他、年貢割付状や五人組帳、新検小帳、願書、用排水関係文書、年貢皆済目録、年貢勘定帳、下の谷新田絵図等名主家でなくては所有しない文書も多い。これらの文書は次の名主である折原家に引き継がなかったものが残っていたと推定される。また、江戸時代中期の岩槻城絵図も発見されている。岩槻城絵図は江戸時代前期の阿部家時代</p>

	<p>のものや江戸時代後期の大岡家時代のものは確認されていたが、江戸時代中期の絵図は初めての発見である。この他、大塚伊兵衛が本陣を勤めた時代の杉戸宿本陣絵図も確認されている。</p> <p>名主を辞めた後の文書としては金子証文、質地証文、年貢皆済覚、大島村（杉戸町）籠絵図等があり、家の文書が中心といえる。この中には百間金谷原組だけでなく、百間中村や百間西原組の名主と関係する年貢関係の文書も残る。明治初頭の文書の中には現在の越谷市である船渡村、平方村、川崎村、大杉村、大松村、向畑村、大吉村や現在の松伏町の松伏村、現在の春日部市新川村、藤塚村の略図や銚子口村の墓地絵図等も残る。</p>
<p>指定理由</p>	<p>百間金谷原村の江戸時代中期後半から後期前半の名主家文書であり、しかも初めて発見された江戸時代中期の岩槻城絵図等も残ることから、非常に貴重な史料といえる。</p>
<p>備 考</p>	